

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)
／清水 茂

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

担当授業においては、以下のことに留意しながら全力を傾注したい。

- 1 授業主題の決定
- 2 授業内容の精選
- 3 授業の構成
- 4 授業展開の留意点
- 5 授業の評価(授業者自身の自己評価と受講生による評価)

実際の授業においては、受講生の実態をふまえ、方法は柔軟に考えるが、「誠心誠意法」を基本とする。

2. 点検・評価

授業の基本となる以下のことに努力してきた。

- 1 授業主題の決定
- 2 授業内容の精選
- 3 授業の構成
- 4 授業展開の留意点の明確化
- 5 授業の評価(授業者自身の自己評価と受講生による評価)

以上に関しては、教師生活43年間をしめくくるにふさわしいものとなったように思われる。おかげさまで悔いのない授業となった。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

就職活動において、論作文・面接試験に悩んでいる学生の個別指導に応じる。(直接依頼を受けたものに限る。)

2. 点検・評価

大学院生から指導の依頼が寄せられた。
毎週1回、放課後に「論作文指導」と「面接に関する対応」に関する直接指導を積み重ねてきた。
少人数、個別指導であったため、その効果は大きく成果が得られたように思われる。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

国公立小学校教員(教諭21年間, 教頭2年間, 合計23年間), 大学教員19年間, あわせて42年間勤めてきました。
教師としての教育実践活動・教育実践研究者としてのあゆみをまとめたい。

2. 点検・評価

教育実践研究者としてのあゆみをまとめるために、資料の収集と整理に努めた。
今の段階で、「実践記録」としてまとめることはできそうだが、「考察」を加えなければならない。
考察を加え、「教育実践研究」とするための作業は、今後の課題としたい。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

実地教育分野の仕事を、次期担当者にひきつぎたい。

2. 点検・評価

実地教育分野の仕事の内容・方法・留意点等に関して、佐藤公子准教授及び事務職員へ伝えることができた。
新しい担当者がきても困らないように引き継ぎを行ってきた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

実地教育担当責任校である, 附属特別支援学校と附属中学校は, これまで以上に教育実習及び教育実践研究において連携を強めたい。

介護等体験実習がなされる社会福祉施設に関しては, 大学を去る者として, 「提言」を残しておきたい。

2. 点検・評価

実地教育担当責任校である, 附属特別支援学校と附属中学校は, これまで以上に教育実習及び教育実践研究において連携を強めることに努めてきた。とりわけ, 附属中学校における教育実習、連携活動は, 実地教員担当20年間のなかで最も充実していたように思われる。おかげさまで, 担当者としてさわやかな教育実習指導となった。

介護等体験実習がなされる社会福祉施設に関しては, 大学を去る者として, いくつかの「提言」を残してきた。施設において泊まり込んで実習を行うことを過去1回試みてきたが, 施設側の協力を得て, 大きな成果が得られたことがあった。次期担当者への検討課題の1つとしていただければ幸いである。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)